令和５年度第４回横須賀市市民協働審議会 議事概要

日時：令和６年（2024 年）３月 18 日（月）
10：00～11：50
場所：消防局庁舎３階　第３会議室

【出席委員】志村委員、石塚委員、岩堀委員、工藤委員、小山委員、島田委員、手塚委員、山本委員、渡辺委員
【欠席委員】佐野委員、髙橋委員
【事 務 局】地域支援部　鵜飼部長、村野課長、山岸主査、里吉主任、加藤主任
【傍 聴 者】なし

＜配付資料＞

資料１　市民公益活動人材育成研修受講奨励金制度の実施状況及び今後の運用について
資料２－１　令和６年度市民協働推進補助金・モデル事業の審査結果　非公開
資料２－２　市民協働推進補助金の交付対象事業の選定に係る審査結果について（答申）案（審議会コメント含む）非公開
資料２－３　市民協働推進補助金とモデル事業の概要　非公開

＜議事内容＞

１　開　会

会議の成立。（委員 11 名中、９名出席のため、会議は成立。）
会議資料の確認。
次第の「１　審議事項」において審議会意思決定の中立性及び公正な審議を確保するため、この部分を非公開とすることについて、全委員の承認を得て決定。

２　専門部会委員の交代について

島田委員が代表を務めるＮＰＯ法人、アンガージュマン・よこすかが本市における条例指定の更新手続き期間に入ることから、令和６年度はＮＰＯ法人条例指定審査専門部会において島田委員が審査にかかわることができないため、他の部会委員の負担等を考慮し、事務局から別の部会に就任している委員との交代を提案し、全委員から承認された。
志村委員長の指名により、市民協働推進補助金等審査専門部会に就任している岩堀委員と交代することとなった。

３　報告事項

（１）市民公益活動人材育成研修受講奨励金制度の実施状況及び今後の運用について

事務局　（資料１を説明）

委員　いろいろあり周知がうまくいかないなか、10 件の利用があり、初年度にしては良かったと思う。説明中、エントリー件数と申請件数の相違について説明があったが、もう少し詳しく聞かせて欲しい。

事務局　この奨励金は個人での申込みとなる。事前エントリーの際はその通り個人で申込みがありエントリーを完了していたが、研修終了後に書類を確認したところ、かながわコミュニティカレッジへの申込及び受講料振込確認書類が団体名となっていた。終了証も団体名となっており、団体申込であった。こちらに関して相違がある場合は対象要件を満たさず、制度上は個人申込であることが条件という旨ご本人へはご説明させていただき、ご理解をいただいた。

委員　初年度で 10 名の利用というのは良かったのかもしれないが、予算の執行が１割弱というのは残念に思う。先日行った市民協働推進補助金の公開プレゼンにおいても、団体内で研修をしたいという話があったので、この制度の利用とうまく繋げられたらと思った。かながわコミュニティカレッジのホームページで講座等を確認すると防災などさまざまなジャンルがあるが、ひとつひとつの講座内容についてはイメージしにくい。普段の市民活動において困っている事と、それに対して受講すべき講座を繋げるのが難しい。困りごと別におすすめする講座の案内をしたり、受講された方の体験談で、実際に講座の知識が役立ったという情報が揃っていると、団体内でも受講に関する具体的な話が広まってゆくのではないか。その部分を調べたりするところからだと、団体にとっては少し敷居が高く感じられるかもしれない。引き続き、いろいろな工夫ができると良い。

事務局　受講される方や、受講を促したい対象に適切に情報が行き届くことが重要かと思う。パンフレット等において何か工夫ができないか、検討していきたい。

委員　かながわコミュニティカレッジは県で行っているが、もしかしたら県においても、どのようなテーマが求められているのか把握が難しいのかもしれない。個々の団体や地域住民とは、市と比べる少し距離があると思われるので、そういったところの声を県に届けたり、情報提供できると良い。

事務局　今回、奨励金受給者にアンケート調査を行った。そういったものや窓口でのやりとりの中でニーズを把握させていただき、かながわコミュニティカレッジの事務局にも伝えていきたいと思っている。また、ニーズという点では、横須賀市内でのサテライト開催が可能かどうか、かながわコミュニティカレッジ事務局へも働きかけを行っているところである。そういった面も加えて、受講しやすいような形にしていきたいと思う。

委員　令和５年度において、県からの委託によりかながわコミュニティカレッジの運営を行っているソーシャルコディネートかながわの代表をしている。事業は年度ごとのプロポーザルなので、来年度の運営団体は分からないが、事業は４月始まりで、来年度は全く変わる可能性もある。その辺り、まだわからないが、講座は、準備の関係もあり例年７月くらいから始まる。それまでは事務局において県の意向を加味しながら企画を練っている時期なので、この状況の時期に横須賀市としても働きかけを行うということは出来るかと思う。例えばだが、今年度行ったアンケート結果などを基に働きかけを行うこともできるかと思う。委託を受けた団体が運営をするがこれは県の事業なので、県の方にしっかりお伝えすることが重要。仕様書に書かれていれば可能性も開ける。以前、小田原市でサテライト開催をした実績があるので、不可能ではないと思う。

委員　こちらに関するチラシは、市役所のほうから案内がきたと思うが、サポートセ

ンター登録団体が対象とのことなので、サポートセンターから年間に何度か届く通信などに入れるといった方法もあるかと思う。

委員　この奨励金の令和５年度予算、令和６年度予算をもう一度確認したい。

事務局　令和５年度は 75 万円、令和６年度予算についてはまだ予算審議が通っていない状況で、端数がでるが、約 50 万円で要求している。

委員　来年度からの運用拡大について、サポートセンターの登録団体以外のところで、市民活動の準備団体のようなものと記載があるが、これはどのような団体を想定しているのか。

事務局　基本的には、趣味の延長線でこの制度の利用により講座を受けるということがないように、受講した効果を市民公益活動として活かしていただきたいというところがあり、対象を市民活動サポートセンターに登録している団体の方々とさせていただいた。一方で、事務局としても受講される市民の幅を広げたく、これから活動を始めようとしている方にも利用できるようにしたいという部分もあり、市民活動の準備団体としてサポートセンターにご登録いただき、そういった方に対してサポートセンターの方から団体の紹介であったり、様々な情報発信をさせていただくことにご同意いただき、受講した方々にはそのような発信を受けていただいて、実際の活動に繋げていただけたらと考えている。
サポートセンター登録については、そのような枠に加入していただくことを考えている。

委員　市民公益活動に興味はあるが、まだどうしたら良いかわからない方を集める仕組みというか、そのようなイメージか。

事務局　そのような認識で良いかと思う。

委員長　基本的なことを伺いたいが、昨年度にかながわコミュニティカレッジを受講した方のうち、横須賀市民は何人いるのか。その人数、何人に対して今年度制度を利用した 10 人となるのか知りたい。
例えば 50 人ほどであり、そのうち奨励金制度を利用した人数が 10 人であれば、もう少し広報に力を入れることが重要かと思う。

事務局　令和４年度は 12～13 人だったかと思う。

委員長　そのくらいの人数であれば、講座を受講した横須賀市民の方はだいたい奨励金について案内があったということで良いかと思う。そうなると、広報として市の取り組みをアピールするというよりも、コミュニティカレッジ自体のアピールをしていく方が効果的なのではないかと思う。
せっかくこのような奨励金制度があるので、上手に活かしていただきたい。

委員　意見というより感想になってしまうが、自分の団体でもボランティアさんにアナウンスをして、概ね好評であった。ただ、横須賀市で活動しているボランティアの方であっても、横須賀市民でない方は利用できないので、そこだけが残念であった。

委員　今年度コミュニティカレッジの事務局をしており、興味もあったので横須賀市民の受講が何人かカウントしていたが、県域で集計すると実は横須賀市民の受講はそう多くはない。毎年 10 人程度は横須賀市民が受講されているので、この制度が始まったことによる今年度の変化はあまり感じられないが、制度そのものはとても有益なものだと思う。学んだことを地域還元するために税金は使われるべきで、そこはしっかり伝えていく必要がある。また、団体申込というケースは結構あり、計５回～８回にも及ぶ講座があるが、回によって団体内での会計担当の方が受講したり、1 人で全ての講座を受講できないので２人で交代して受講する、などという団体申込も、コミュニティカレッジとしては受け入れている。そうなると、この受講方法でこの奨励金制度はどのように使われるべきか議論が生じるかと思うが、例えば横須賀市内に事務所の登記をしている法人であれば、その法人のスタッフは利用できるようにするなど、もう一

息、なんとか救い上げたい部分もあるかと思う。あまり広げすぎると、予算の使い方も難しくなってくると思うが、例えばサポートセンターへ登録している団体へ所属している他市の市民の方が、横須賀市へ公益活動に来てくれるというのは喜ばしいことであるので、そのような団体に所属しているという証明をもらっている方は利用できるなど、今後において方法をご検討いただけたらと思う。

委員長　市民だけでなく在勤在学の方も利用できるといった、図書館の利用カードのようなイメージか。予算上、申込が殺到していて抽選となるような状態だと難しいが、予算に余裕がある場合は検討の余地があっても良いのかもしれない。

事務局　市において行政サービスを提供する場合にはどうしても、横須賀市在住というようなところで範囲を決定させていただいており、この奨励金制度においても同様とさせていただいている。ただ、この制度は市民協働、市民公益活動という観点から、その範囲の決定を従来通りに当てはめている形で良いのかという議論はある。一方で、税金を使った予算の当て方であり、市全体としての観点もあるので、本日の意見を踏まえて研究させていただければと思う。

委員　先ほど委員からもご意見あったかと思うが、市民活動サポートセンターからは案内はしていないのか。

事務局　毎月発行される、のたろん通信に記事のスペースがあれば掲載してもらっている。また、全登録団体あての発信をする際に可能な限り協力していただくなど、折に触れて案内を送らせていただいている。

委員　のたろん通信は記事の一部であるが、そういった形ではなく別に案内が入ればすごく申込は増えるように感じるが。

事務局　一応、ダイレクトメールで登録している全 700 団体に対しお送りしている。

委員　自分も登録団体の一員であるが、案内があった記憶がない。この制度はとても魅力的なので、対象がサポートセンターの登録団体のみであっても、知れば申込は増えると思う。

事務局　令和５年度においては制度開始初年度なので、サポートセンター登録団体 700 数団体宛てダイレクトメールに加え、会報誌などにも掲載をさせていただいている。

委員　アナウンスをして、もし知ったら増えると思う。自分も登録団体なのに知らなかった。知れば増えるのでは。

委員　講座は例年７月から始まるが、募集はそれぞれの講座によって期間が違うので「７月開催分」「８月開催分」「９月開催分」など、分けて行われる。ＨＰでも提供される年間のスケジュールだけでなく、各講座のカリキュラムの入った案内も市やサポートセンターへ届いているかと思う。なので、例えばだが、サポセンで奨励金を利用して受講できるコミュニティカレッジ講座のコーナーを作って、チラシを並べて貼るなどしてはいかがか。チラシはＡ４サイズで細かいので、Ａ３に拡大し何枚か並べて貼ると、インパクトがあり目立つし、内容がよく分かると思う。チラシは事務局のほうで目を引くように作っている。空いている壁などのスペースに隙間なく貼るようにするだけで、だいぶ目立つと思う。横須賀ならではの取り組みをしていただければ。講座の内容はカリキュラム通りに掲載されている。

委員長　ちょっとしたことで、実はすごく稼働率が良くなることもあるので、いろいろ工夫をしていただけたらと思う。この奨励金の名称も長いので、もっと親しみやすい愛称のようなものがあっても良いかもしれない。

（２）令和６年度審議会スケジュール

事務局　（令和６年度市民協働審議会開催スケジュール予定表を使い説明）

委員長　報告会の時期が例年から変更するというのは少し大きいかもしれないが、その点についてなど、何かあるか。そもそも６月に開催していた理由は何であったか。前年度の報告なので、あまり間が空いても間延びしてしまうし、かといって４月早々というのはなかなか準備が追い付かないというような理由だったように思うが。活動する側としてはどうか。

委員　活動する側からすると、６月は総会があったり、なにかと忙しい印象である。７～８月の方が、ゆとりをもって準備できるような気がする。

委員　夏休みに入ってしまうと、子供を抱えたお母さんがたは、逆に忙しくなってしまうのでは。そこが心配である。

委員　お子さんも連れてきて一緒に参加できるような会にできると良い。

事務局　もうひとつ、現時点での事務局におけるイメージとしては、学生でボランティア活動をされている方など、８月に入ってしまうと地元・実家への帰省などあるかと思われるので、７月の試験が終わり、かつ帰省シーズン手前くらいに設定できたらと考えている。

委員　大学にもよるかと思うが、７月は試験期間なので学生は難しいかもしれない。

委員長　最近の大学は試験期間が結構流動的で、毎年１～２週間試験期間が変更することなども年度によってよくある。

委員　どの時期にしても、団体にもよるし、一長一短あるかと思う。一応この時期というのを決めて、そこで参加していただける方達を盛り上げていくということで良いのではないか。

委員長　せっかくの機会なので、見せ方とか、そういった部分も話ができればと思う。いつも勿体ないと思ってしまう。プレスリリースもそうだが、できる限り沢山の方々に見ていただきたい。特に、若い方に見ていただけると良い。それには、時期として７～８月開催は良いと思う。

委員　オンライン視聴を取り入れたり、無駄になる可能性もあるので何とも言えないが、映像を残して団体もＰＲに使えるように撮影するなど、会場に来ることが出来なくとも別の場所からでも見ることができるようにする工夫や、保育をつけるなど、沢山の人が来ても大丈夫という工夫をしつらえるのは重要。保育ありはとても良いかと思う。

委員長　子供も一緒に活動報告の発表を見て、小さい頃から協働の意識がついたらとても素晴らしい。個人的には、収録をしていただいて、いつでも見られるような形にするのが良いと思っている。その日限定でしかプレゼンを見られないのは勿体ない。少なくともサポセンには動画があって、そこに行けばいつでも見られるなど、方法を検討していただけると良い。本当の意味での広報はそういった部分かと思う。

委員　世田谷まちづくりファンドでの事例を参考にお話すると、後から見られるようにするのはなかなかハードルが高いのか、アーカイブ配信はしていないが、生 YouTube 配信をやっている。一般社団法人世田谷トラストまちづくりという事務局が運営しているので、意見交換などしていただけたら。お子さんがいても家から視聴することができるし、団体の方でも発表の現地に来れない方は YouTube で視聴する方もいる。ものすごく視聴数が多かったり新しい方が増えるという感じではないのだが、第一歩としてそのような方法の検討をするのは良いと思う。

委員長　配信は、生配信・収録を後から流すという形があると思うが、行政側として懸念事項があれば教えてほしい。

事務局　ひとつは以前、補助金やモデル事業の申込をする際に、プレゼンをするという事が非常にハードルが高く感じられ、応募者側からすると敷居が高くかなり緊

張してしまうというお話があった。報告会であればまたニュアンスは違ってくるのかもしれないが、そのようにハードルが高いと感じられているところに、更に撮影されて外に流れるといった場合、応募される側はどのように受け止められるのか、つまりは更にハードルを上げてしまうことにならないかという点である。また、当然ではあるがもし配信するのであれば募集の時点でそのような案内をしておくべきである。加えて、団体側の発言内容については事前に把握できないので、万が一人権やジェンダーその他の観点から適当でない発言があった場合に、生配信では取り返しがつかないことになり、収録の場合、編集できたとしても前後の意味が繋がらなくなる可能性や団体の意図するところとならない場合があり、そういった点を踏まえ、現時点では事務局として明確に結論が導きだせずにいる。

委員長　意外にも、肖像権などの問題でないことが分かった。審査は確かにデリケートな部分があるが、報告会は楽しく発信できれば良いのではないか。編集については、団体の意図を確認しながら行うなど、やり方はあるかと思う。また、例えば YouTube 配信でなくとも、映像をサポセンで保管しておいてそこで貸し出し可能にするなど方法はあるかと思う。生配信は取り返しがつかないが、最初から撮影の話をしておけば発表者もその心づもりで発表するのではないか。それよりも、多くの人に見てもらうということにとても価値があると思っている。逆に、報道などが押し寄せて適当でないものが放送されてしまったら、そちらの方が取り返しがつかない。県や、他市を参考にしていただいて、前向きに検討していただきたい。

委員　以前自分の団体が補助金に応募した。プレゼンは本当に緊張して、最初は声が出なくなってしまったという経験がある。個人的には、募集の段階で、自分の発表を撮影され、それが後日どこかで流される可能性があるという事であれば、自分だったら応募しないかもしれない。ただ今年、審査委員をして、若い方はプレゼンスキルが高かったので、そのような方々であれば、苦にならないのかもしれない。自分の体験談からすると、とてもハードルが高いと感じる。

委員長　ちなみに、ハードルが高いと感じたのは、審査と報告会のどちらか。

委員　どちらも同じく緊張した。

委員長　審査はともかくとして、報告会も緊張してしまうようなしつらえになっているのは問題かと思う。今はだいぶ雰囲気が柔らかくなったが、緊張しないで楽しくやろうというような、緊張させない工夫を我々はしないといけない、これは一つの課題である。

委員　特に、初めて応募した団体はとてもナーバスになっていると思う。報告会でおかしなことを言って補助金を取り消されたらどうしようと考えてしまう。

委員長　実際そのようなことはあり得ないが、それくらいの不安や緊張を伴い発表する団体もあるのかもしれない。また、市役所の正庁で開催するのとサポセンで開催するのとでは雰囲気がだいぶ違うかと思う。それこそ、公園など、賑やかな場所で行うくらいが良いかと思う。お客が少なくて市の職員しかいないより、子供が多くて少し騒がしいくらいの状況で、「楽しそうだな、何をやっているのだろう」と思えるような雰囲気、そういったものが醍醐味なのかなと思う。

委員　全体として、発表する側のハードルを下げる雰囲気づくりというのはあっても良いかと思う。

今回、審査の公開プレゼンに自分が関係する団体から２名が傍聴していたが、すごく良かったという感想をいただいた。いろいろな団体の発表が聞けたことで興味を持つ事ができたとの事であった。本当に、もっともっと多くの人に来ていただけたら良いと思う。

委員　以前、時期とは別に、週末開催か平日開催か、という議論があったかと思う。夏休み期間に開催するということで、また考え方も変わってくるかと思うが、

そのあたりはどのように考えているのか。

事務局　曜日等についてはまだ具体的にはなっていないが、開催場所がサポートセンターなので、サポートセンターの利用者が多い日に開催するのが良いかと考えている。

委員長　職員が土日に出勤する必要がでてきてしまうかもしれないが、学生や一般の方が足を運びやすい日に開催していただけたらと思う。

４　審議事項

令和６年度市民協働推進補助金・市民協働モデル事業の審査結果について

審議の結果、令和６年度市民協働推進補助金の審査結果については専門部会の審査結果通り承認。

志村委員長から鵜飼部長あて答申書を手交。

５　閉　会